



新編  
新編

豐泰商賈往來藏

童子車室

謬字改正

全



# 高賣往來



立春書初詩歌

佳辰八月秋分

万葉秋樂味央

長生殿春秋尚

不老門若日月

よのあまたあまを

このかた

池邊西風度解

雲海小面を封

中

中

高賣往來

凡高賣往來  
 文字有負教取遺之  
 日記證文源以法取  
 便入義用帳目録  
 仕切之骨身也





人々 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

去伎 郡二	餘計 郡二	藤 郡四	日向 郡五	肥前 郡十	豊前 郡八	筑前 郡十五	西海 郡九	伊豫 郡十四	阿波 郡九	纪伊 郡七	南海道 六箇
對馬 郡二	二箇國		大隅 郡八	肥後 郡十四	豊後 郡八	筑後 郡十	西海道 九箇	大佐 郡七	後波 郡十二	淡路 郡二	

損失 寺有 辨之 存云  
 味膏 酒那 若油 麴  
 油 蠟 燭 紙 墨 筆 末  
 此外 竹 布 類 金 網  
 儒子 純子 紗 綾 絹  
 酒 綸子 羽 衣 產 水 竹

下 二 三 四 五 六 七 八 九 十 十一 十二 十三 十四 十五 十六 十七 十八 十九 二十

周防 郡六	備前 郡十	備後 郡十	播磨 郡十四	山陽 郡八	石見 郡六	信濃 郡六	但馬 郡八	丹波 郡六	山陰 郡八	佐渡 郡十	越後 郡七
長門 郡六	安藝 郡八	備中 郡九	美作 郡七	山陽道 八箇	隱岐 郡四	雲 郡十	同備 郡七	丹波 郡五	山陰道 八箇		

種 且 弘 牧 被 核 登  
 回 屋 藏 金 密 呼 合  
 虫 辰 相 場 不 遠 核 美  
 拊 老 運 貨 水 上 官 後  
 互 一 相 賣 於 合 劫  
 利 國 之 行 出 人 之 有

世俗談言の女

○陣徳あまの湯敷あ  
了くしふ穢  
唐土をまふ孫叔敖と  
いふあり初後と外  
ふせあひの地をさ  
お殺しとうむあふ  
くりに泣きたる母あ  
ゆををの叔教とく  
て日あひの地をさる  
そのうまうし  
いふ我今日さうりさ  
ごめてたするるべし  
とて泣ききくそのの  
いふいふあふとと  
何れと教がく我  
へは世の人のふ



見せまきかあ殺  
しとうむのりこ  
母のいふ泣きき  
ををまぬるるべし  
極とて法あてふ  
法あまの湯敷あ  
あまのりこ  
いふあまのりこ  
く年長て信ふ  
るり是法使ある者

生絹天竺紫織羅紗  
程く緞匹有板先  
種兜几羅縹綿絁物藤  
杓仕立杓古子真  
佛拈師本佛磨字  
袖有衣袴羽織同

緞袷單物帷子夜衣  
蒲團蚊帳深衣夙  
只衣及子袷帛紗布  
陣巾定衣女深衣緞  
花邊浴衣袴袴及衣  
袴金車及賦衣及衣

物類ありとらるる紫  
 水ありとらるる  
 ○一樹の陰一河乃  
 流といふ事  
 一木の影一河に  
 流るる事と海流  
 一本の影はあま  
 又入る天のさ  
 みる事と海流  
 てあまぬ人も本  
 切れててりて  
 小川の影と海流  
 又二河の流と海流  
 人も波あててあ  
 人も波あててあ  
 人も波あててあ  
 人も波あててあ  
 と時をまわると云

獲朽菴紅粉本深  
 入經教之海難之業  
 高折筆所不車沃  
 浮冰車地扇羞梅  
 遠九曜冒法巴業  
 相泊菴菴考康年女

子佛也志志  
 ○井の内此陸海  
 を知むとていひ  
 けいこえの海流  
 の書もふんこり  
 候き智をさるる  
 候とていひとる  
 ○論海流海流  
 ぎくいの事  
 世に海流を流  
 人の心をありて  
 人の心をありて  
 のたさるる海流  
 のたさるる海流  
 のたさるる海流

産々々好換松竹好  
 人乃衣士之用具其  
 不流多有坊之分可  
 矢鉄地鉄長刀鋒  
 後兜鞍澄沈障切  
 付帯手網腹帶鞆



○天都地都の事  
 後漢のとき揚震と云  
 人あり王密と云ふもの  
 揚震ふそんてんてん  
 揚震うけはせと云ふ  
 としてある秋葉合弁  
 をのちきりてあつた  
 揚震うけはせと云ふ  
 かのうく夜るまはる  
 そのまゝ一多のふり  
 揚震がのりて天を  
 地を知るはあつた  
 人ぞ知るものなりと  
 いふやといひたるま  
 こゝをうてて美  
 金をのりてさりぬと  
 のうのう後漢書と云

府給利集子比視變  
 庫文卷第幾架視廢  
 文法檢石南京有  
 續不統中者次雜  
 具首為鉄杖和櫃出  
 本下和廣風管年首

へんのまじりの見さ  
 る不して悪事と云  
 百せども天をまじ  
 ありたまふすつひ  
 ぶそまふ徳ひは  
 ことごとく目あつたり  
 人としてその事  
 情まざる處々んや  
 知らん外ちこそま  
 りあり

衝之使障子管深徳  
 幕帔枕和湯桶切立  
 并高合冠重和提  
 重以美四洋歪烟  
 鴉陶陽危丁生眩  
 箸燭卷紅枕桃枕



高



相性名頭文字

○木性 金性

武 文 八

漆 兵 車 平

外 系 門 貴

馬 壘 福 浦

派 傳 方 芳

石 保 房 澤

○火性 土性

義 角 久 五

九 金 幼 深

菊 有 秀 赤

檢 負 啓 儀  
助 牛 圓 龜  
高 元 廣 今

○土性 金性

辰 左 利 理

仁 治 修 長

德 隆 猪 貞

文 亮 固 林

權 竹 忠 伴

牛 細 曲 一

○金性 土性

青 鐵 乃 赤

須 藥 藥 藥 灌 藥 碗 藥  
柄 抄 灌 子 嚙 探 探 探  
版 羽 確 確 筆 編 筆 筆  
木 履 弓 直 不 出 內 不  
貝 合 可 石 為 藥 常 造  
藥 梳 毛 具 長 車 梳 梳

子 子 太 美 細 辛 河 公 藥  
石 斛 河 膠 貝 母 獨 活  
甘 草 肉 桂 藥 藥 藥 門  
弓 為 尚 油 藿 香 烏 藥 薑 薑  
二 棧 白 芷 藜 蘆 香 陳 皮  
羌 活 桂 枝 芍 藥 黃 芩

虎	唯	依	和	友	愛	宗	仁	与	字	榮	亮	乙	通	右	運	煮	○水性森中吉	莊	周	水	務	千	孫	胡	正	松	為	淡	后	佐	清	化	市	助	成	茂	尚	次
---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

連根穀巴豆桃仁蓮  
 肉杏仁伽羅蘇合獨麝  
 香樟腦沈香白檀丁  
 子人參硫黃煅硝磺  
 青礬礬石辰砂煉朱砂  
 朱膏黃素丹白膏靈藥種

正月 大簇 王春  
 歲始 芳春 孟春  
 總春 上春 幼春  
 至陽 青陽 青歲  
 元日 三朝 正朔  
 元旦 納旦 三始  
 青且 未時 淑節  
 二月 夾鐘 如月  
 殷春 四陽 春分  
 合月 中祗 仲陽  
 三月 姑洗 養月  
 暮春 殿春 五陽  
 春抄 晚春 竹秋

十二月五節異名

不用量人參之根心  
 真身一也毛介山海  
 之魚為鰐龍子乃  
 鴨雲雀雀白鳥鴉鵲  
 旭珙翹雞野鹿真  
 鯨乾珠真鮫蘇紡





十幹之文字

甲 <small>多春</small>	乙 <small>少春</small>	丙 <small>少夏</small>	丁 <small>少夏</small>	戊 <small>少秋</small>	庚 <small>少秋</small>	辛 <small>少秋</small>	壬 <small>少冬</small>	癸 <small>少冬</small>
ま	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ

十二支之圖



表微放減之基元誓  
 見世相去之難採抄之  
 不空家之乃系和太  
 今言の採人之目象  
 天野老重之同本人  
 憐天送之働事之終

富貴採富子孫栄  
 花之瑞相也信利源之  
 疑仍如件

干時元治二年乙丑正月再刻

東都書肆

馬喰町二丁目

木林屋治兵衛版

佐久野

明  
江  
敷  
人

一  
部  
作  
給  
藏  
度